

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）

Nara IDSC



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ 感染性胃腸炎情報 ～感染症情報センターより～ 



（調査週） 平成 23 年 第 1 週 1 月 3 日（月）～ 1 月 9 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	6.03	↓	→～↓	↓	↓
2	水 痘	2.69	↑	↑	↑	↑↑
3	インフルエンザ	2.09	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
4	RS ウイルス感染症	0.71	→	→～↓	→	↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.51	→～↓	↓	→	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 233 例で、前週報告の 175 例から増加。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、水痘、インフルエンザ、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑の順。インフルエンザの報告数（45 例）は、急増。感染性胃腸炎の報告数（105 例）は、増加。水痘の報告数（43 例）も、増加。RS ウイルス感染症の報告数（12 例）は、横ばい。伝染性紅斑の報告数（11 例）は、やや減少。なお、インフルエンザの定点報告数の内訳は、奈良市 HC 管内；14 例、郡山 HC 管内；31 例だった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。また、奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告もなかった。（村井 記）

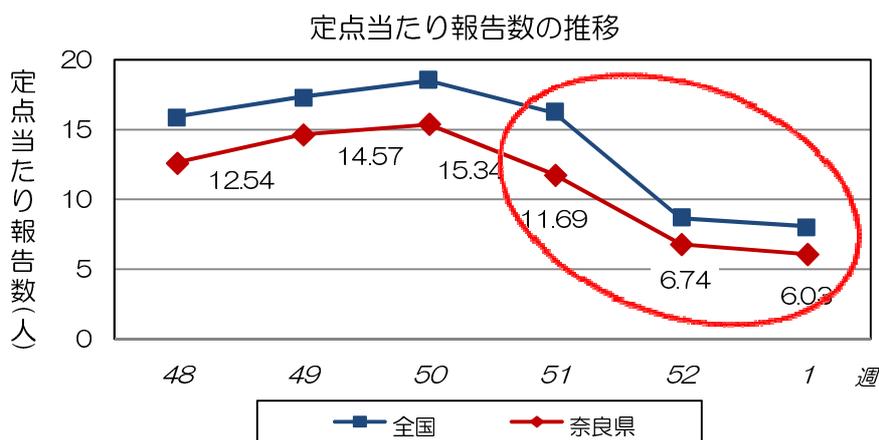
県中部地区概況 報告数は、161 例から 217 例と増加した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、RS ウイルス感染症、A 群溶連菌咽頭炎の順であった。感染性胃腸炎は 86 例と減少した。インフルエンザは、61 例と急増し、桜井保健所より 22 例、葛城保健所より 39 例の報告があった。桜井保健所は 2 週前より流行期に入り、葛城保健所は 3 週前より流行期に入っている。眼科定点からは、流行性角結膜炎 3 例の報告が葛城保健所よりあった。（高木 記）

県南部地区概況 報告数（H22年第52週→H23年第1週）は51例→55例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（44例→20例）、②水痘（3例→15例）、③インフルエンザ（1例→9例）、④A群溶連菌咽頭炎（2例→6例）、⑤RSウイルス感染症（0例→2例）、⑥突発性発疹（0例→1例）、⑦流行性耳下腺炎（1例→1例）、⑧無菌性髄膜炎【基幹定点】（0例→1例）。
（柳生 記）

【 感染性胃腸炎情報 ～感染症情報センターより～ 】

○ 奈良県及び県内保健所の定点当たり報告数と概況

感染性胃腸炎の報告数が、第51週以降3週連続で減少しています。これは全国の報告数においても同様の傾向が見られています。なお、県内の全ての保健所管内で、国立感染症研究所感染症情報センターで定めている警報が解除されました。（警報：大きな流行が発生または継続しつつあると疑われる状況、警報開始基準値：20.00、終息基準値：12.00）



※奈良県定点当たり報告数のみ数値を記載

保健所別定点当たり報告数(人)	県合計	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野
平成23年第1週 (1/3~1/9)	6.03	7.00	5.60	6.71	5.57	5.00	5.00
平成22年第52週 (12/27~1/2)	6.74	2.57	5.40	11.43	5.71	17.00	5.00

（感染症情報センター 記）